



WE, JOKERS

英語のジョークを楽しむ会会報

No.30 April 10, 2012

- ジョークの心得三か条:
1. ジョークは心のゆとりであり、人生の潤滑油です。
 2. ジョークで言語の壁に挑むのは知的快感です。
 3. ジョークは簡潔が至上です。

ジョークと私

ワインと孫

田村 公雄



人生には次の三段階があるそうです。

The three stages of life. You believe in Santa Claus. You don't believe in

Santa Claus . You become Santa Claus.

人生三段階のうち最後のステージを孫達と楽しんでいる写真です。季節はずれの写真で恐縮ですが、これら 7 人の孫達とワインを飲むことが出来る日を待ちわびている今日この頃です。

半世紀にわたりヨーロッパとの取引に没頭してきた私は、ワインとの出会いも古く、自然にワイン愛飲家になっていきました。Mr. Beer と呼ばれるぐらいビールが好きだった私もいつしか完全にワイン党にコンバートされてしまいました。エレクトロラックス社の 200 本用ワインセラーを設置し、夜毎、どのワインにしようかと楽しんでいます。

英国の取引先で夕食会に招かれたとき、私がワインのテイastingをするように指名されました。本来ホストの役割であるテイastingをゲストの私がするのはおかしいのですが、crazy wine lover で知られている男の腕前を見たかったのでしょう。

注がれたワインをスワリング (Swirling-空気を取り込んでワインの香りを開かせるためにグラスをクルクル回す行為) し、香りを確かめ、口に含んで

からおもむろに This is too good to share, too good to recommend! とやったら大笑いになりました。

これは孫たちにチョコレート・フォンデュなどを作ってあげた時、じーじだけが味見をして「まだお勧めできない」とじらすジョークの応用編です。孫たちも「私も味見に協力したい!」と地団太踏んで辛抱して待ちます。日本で使うジョークが本場でも受けると嬉しいものです。

地下に本格的なワインセラーを持つフランスの友人が話してくれた興味ある話があります。

子供が生まれると、その年のワインを 100 本ほど購入しワインセラーに保存する。そしてその子が結婚する時、誕生年のワインを開けてお祝いをするとのことです。ただ熟成がどの程度進んでいるかを度々チェックするので、100 本がどんどん少なくなっていくと笑っていました。

素晴らしい話なので早速私も真似をして、スケールは小さいが、孫が生まれる度にその年のワインを一本ずつ保存しています。孫が成人したら一緒に飲もうということになっているのです。

一番上の孫は今年大学生になりました。あと二年もすると一緒にワインが飲めます。こうして 7 人の孫と成人を祝うことが余生の第一段階の目標です。

ワインパワーで若さを保ち、孫全員と一緒にワインを飲む日を楽しみにしています。

「英語のジョーク宅配便」創刊 100 号記念

ベスト・スリー選出コンテスト顛末記

佐川 光徳

「英語のジョーク宅配便」創刊号は、2010 年 3 月 31 日に本会の HP 上に掲載されました。執筆陣は、相原悦夫・安藤雅彦・岡田茂富・土屋政雄・豊田一男の、本会が誇るツワモノ・ジョーカーたち。(失礼。相原さんだけはツヤモノ・ジョーカーでした。)安藤さんが今年の 1 月、田村公雄さんと交替された他、編集担当の私と、HP 管理の木戸英夫さん(アティック株式会社)は変わりがありません。当初の毎水曜日の発行は、途中から毎月曜日に変更されました。

この宅配便が、この 3 月 5 日にめでたく 100 号に到達したことを皆様と共に喜びたいと思います。

これら 100 題(正確には 104 題)の中から、第一次選考で 25 題に絞り込み、さらに第 30 回研究発表会の場で、ベスト・スリーを選出しようというのが今回の趣旨でした。大胆にもこの第一次選考役を務めたのが私だったのですが、これがなかなかの難事でした。

比較的語数の多いものや YouTube 使用のものは割愛し、直感を頼りに選考を始めたのですが、何度やっても、通過作品が 35~40 題になってしまうのには困りました。つまり、毎回掲載されたジョークの質の高さを見せ付けられた思いだったのです。

パワーポイントの制作と機材の操作は、いつものカバオジサンこと・植田良明さん。emcee は超多忙の中を拝み倒して新堂睦子さんをお願いしました。

俎上に上った 25 題と、評決の結果については、本号の JOKE CONTEST SUPPLEMENT をご覧いただくこととして、印象深かったことを、偏愛と偏見に基づいて以下に書き連ねます。

◆ダントツ・トップは、9 票を得た相原さんの、*Getting married is very much like going to a restaurant with friends. You order what you want, and when you see what the other person has, you wish you had ordered that instead.*

申すまでもなく、*The grass is greener on the other side of the fence.* と同じ趣旨の箴言ですが、これにツヤモノ的粉飾を施したものを出したところが、いかにも相原調ではありませんか。

◆問題は、5 票を獲得した次点作が 4 点も出たことです。そこで、決選投票に持ち込まれましたが、9 票を獲得してベスト・ツアの座を占めたのは、またもや相原さんのもの。

Doctor: Your husband needs rest and peace. Here are some sleeping pills. Wife: When must I give them to him? Doctor: They are for you.

どうやら本会は、創立満 5 年にしてすっかり相原マジックの虜になってしまったようです。

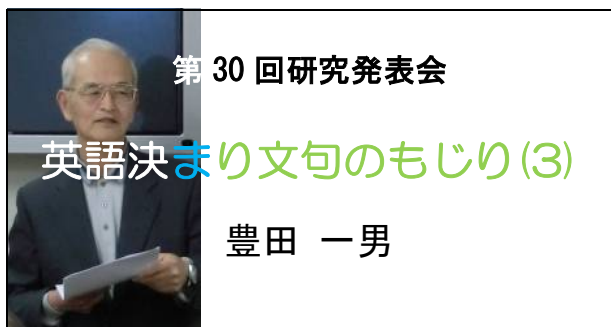
4 票を獲得して第三位を得たのは、田村さんの、*Why is it that the winner of the Miss Universe contest always comes from earth?*

他の E.T. が怒るのも無理はありません。合衆国内のことなのに、*world series* を潜称することへの批判も見え隠れするようです。

この他、辛口ジョーカー土屋さんが出題された *Life is a sexually transmitted terminal disease.* 翻訳不能のジョークにこだわり続ける安藤さんの、*Policeman: I'm afraid that I'm going to have to lock you up for the night. Man: What's the charge, officer? Policeman: Oh, there's no charge. It's all part of the service.*

が決選の対象となりましたが、実は私は一次投票の三票のうちの二票をこれら二題に入れました。理由は、どちらも *paraphrase* しようとする、難儀が予想されるものだからです。このあたりに私のジョーク観が潜んでおります。

今回の失敗は、「ベスト・スリー」選出としたことでした。せめて「ベスト・ファイブ」にすべきだったと反省しております。



この会の発表では「英語ことわざのもじり」「英語名句のもじり」「英語決まり文句のもじり」と「もじり」ばかり取り上げてきたので、遂に植田良明氏に光栄にも「モジリアー二」と名付けられるに至った。今後もこの名に恥じぬよう精進したい。

much ado about nothing から騒ぎ((Shakespeareの喜劇 *Much Ado About Nothing* の題名から))

・ Hay fever is much achoo about nothing.

(花粉症とは何でもなくくしゃみばかりすること。) ado と achoo のしゃれ。何でもなければ騒いだりするか！と 60 過ぎてから花粉症と付き合っている筆者は叫ぶ。

(God) Bless you! お大事に((「あなたに神の恵みがありますように」の意で、くしゃみをした人に対して言う；くしゃみは不吉なものと考えられていた))

・ What do people say when God sneezes?

(Henny Youngman)

神様がくしゃみをしたら People bless you!
とでも言うのかしら。

for Christ's sake どうぞ、お願いだから((「キリストのために」の意から))

・ Ballparks are religious places. I keep hearing, "Sit down, for Christ's sake!" (野球場は宗教的な場。

「頼むから座ってくれ。プレーが見えないよ」)

drink like a fish 大酒を飲む

・ There is nothing wrong with drinking like a fish as long as you drink what a fish drinks.

(魚のように飲んでも悪いことは何もない。魚が飲む水を飲んでいる限り。) 魚が水を飲んでいるかどうかはここでは問題ではない。

drink to ...'s health ...の健康を祈って乾杯する

・ We drink to one another's health and spoil our own.
(Jerome K. Jerome)

他人の健康を祈って乾杯を重ねた揚句身体を壊すのが愚かな飲兵衛の常。

make (both) ends meet 収支を合わせる；借金しないで生活する

・ Just about the time you think you can make both ends meet, somebody moves the ends. (やっと収支とんとんになったと思ったら、誰かが帳尻を動かしてしまった。)

Keep up with the Jones(他人に負けまいと見栄を張る) のは無駄なこと。だから、

live within one's income 収入以内の生活をするべきなのだ、たとえそのために借金しなければならなくなっても。

・ You should always live within your income, even if you have to borrow to do so.

(Josh Billings)

そして、借金を返すべく一攫千金を夢見てラスベガスへ行くと、

・ They are so friendly in Las Vegas, they welcome you with open palms.

with open arms (両手を広げて、心から)

「いいカモが来たと両掌を広げて歓迎してくれる。arms と palms(手のひら)のしゃれが効いている。すってんてんになって帰って来ると、

・ Pawnbroker's sign: "See me at your earliest inconvenience." (質屋の看板「ご都合が悪くなったらいつでもできるだけお早めにどうぞ。)



at ...'s earliest

convenience ご都合のつき次第、のしゃれ。

in conclusion (スピーチなどの最後に) 最後になります...

・ Beware of the conversationalist who adds 'in conclusion'. He is merely starting afresh.

(Robert Morley)

(「では最後に一言」と言う話好きには気をつけろ、また話し始める前置きなのだ。)

結婚式の主賓の長演説を思い出す。ビールの泡が消え去っても話は終わらない。

では最後に一言。この話、まだまだ続きます。

萬ジョーク店

Politically Very Very Incorrect

宮本 倫好

私が最初に米国の土を踏んだ 1960 年代前半は ethnic joke の全盛期でした。書店には特別コーナーが設けられているほどで、パーティなどでは少数民族を笑いの種にするのがごく普通でした。

黒人解放運動の進展につれ、それがガラリと変わり、少数民族批判はタブーになって、範囲も女性、身障者、高齢者など、いわゆる社会的弱者に拡大しました。「これでもう ethnic joke は終わったか」と思ったのですが、何と何と、ネット上では相変わらず健在です。しょせん人間は偏見の動物で、その発露としての ethnic joke をとことん排除することもない、と開き直った感じです。

そこで民族グループの stereotype を再考する機会と考え、politically incorrect の joke を改めて紹介してみることにしました。

先ずは、例によって各 ethnic ごとの比較です。「世界で一番危険な連中は？」への答。

A Jew with money, a Greek with tennis shoes, a Puerto Rican with a knife, and a Polack with brains. (注・tennis shoes はマラソンとともにギリシャが発祥地。プエルトリコ人は犯罪者が多く、ポーランド人は薄ノロという偏見が米国で非常に強かった)

この設問を現在風書き直せば、an Iranian with an atomic bomb や a Japanese with technologies to overcome a tsunami なんてのはどうでしょうか。



Ethnic joke の主役は何と言ってもユダヤ人ですが、joke の殆どは在米ユダヤ人の作といわれ、彼らのユーモア・センスと自分を客観視して笑い

飛ばす柔軟な精神に敬意を表します。一方で、成功はもう不動のものという自負が、自身を笑いのタネにするゆとりを生むのでしょうか。いつも内に不安症候群を抱え、世界の目を気にする日本人ではとてもこうはいかないでしょう。そんな Jewish joke を二つ。

・Did you hear that the limbo was invented by★

創立五周年記念

第 32 回研究発表会のご案内

会員各位のご参加をお待ちします。まだ会員になっておられない方もどうぞ。

- 日時：5 月 19 日 (土) 午後 2 時-4 時
- 会場：平河町 Mercury Room (クオリティ(株) 6 階会議室) (東京都千代田区平河町 1-4-5 平和第一ビル)

- 交通：地下鉄・有楽町線麴町駅 1 番出口より徒歩 2 分。地図は、

<http://www.quality.co.jp/> どうぞ。

- プログラム

- ① 「ジョン万次郎と英語」 乾隆 氏 (東京家政大学人文学部教授)
- ② 「Lady Mondegreen は殺された? - mishearing が生む笑い」 宮本倫好 代表

- 特別プレゼント

フランク・マコート作、土屋政雄(本会会員)訳 『アンジェラの祈り』(新潮社)を、抽選で 10 名の方に、プレゼントします。

- 参加費：会員・非会員とも 1,000 円。(財政逼迫のため、値上げ致しましたどうぞご容赦をお願い申し上げます。)
- 研究発表会終了後、近くの喫茶店で交流会を開きます。こちらにも、どうぞご参加ください。
- 問合せ先：renraku@eigojoker.com

★ the Jews? Yeah, from sneaking into pay toilets.

・What's the difference between a Jew and a pizza? A pizza doesn't scream when you put it in the oven. (注・当然アウシュヴィッツの連想ですが、これは幾らなんでもユダヤ人自身の作とは思えません。民族的痛点を余りに激しく突くからです) (後は次号に)

WE, JOKERS No.30

英語のジョークを楽しむ会 (Joke-Loving Club) 会報

発行日：2012 年 4 月 10 日

発行人：世話人代表 宮本倫好

編集人：佐川光徳

発行所：英語のジョークを楽しむ会

〒102-0093 東京都千代田区平河町 1-4-5 平和第一ビル

クオリティ株式会社 気付

TEL:03-5275-6121, FAX:03-5275-6130

問合せ先：renraku@eigojoker.com

